

# 衣

## 中部日本ネーム刺繍業組合

# ネーム刺繍のノウハウを 活かし仕事の幅を広げる

### ミシンを操り自在に文字を描く

ネーム刺繍とは文字通り刺繍の技法を使い衣服や帽子などに個人や企業の名前を縫い付ける技術です。刺繍によって絵や文様などを描くことは古くからおこなわれています。日本にも、古くから日本刺繍が伝わっています。ただしこうした技法を利用してネームを縫い付けるようになったのはそれほど古くはないようです。最初は手縫いで目印程度であったのかもしれませんが、やがてミシンが使われるようになりました。戦前の名古屋には4社ほどしかありませんでしたが、昭和30年代には背広や作業服を中心に需要が増えてきました。昭和38年頃には組合を設立するくらいまでに、業界は大きく成長しました。

当時はミシンを使い1着ずつネームを刺繍しました。ミシンの針は1カ所に固定され上下に動くだけです。そこで刺繍をする布地を前後左右に動かさなければなりません。筆を固定しておき、紙を動かしながら文字を書くようなものです。しかも固い布地もあれば帽子のように曲面になっているものもあります。下書きの上をなぞるわけではありません。

### ネーム刺繍からマーキングへ



かつては何年も修行を積んだ職人にしかできなかったネーム刺繍も、いまではコンピューターによる自動刺繍機に取って代わられつつあります。昭和40年頃からチーム名などをカッティングしたフェルトをミシンで縫い付けるスポーツのユニフォームが出てきました。ネーム刺繍の需要も減少しています。いまではネームの入った背広が珍しくなっています。そこで刺繍だけでなく、転写、プリントなどを含めたマーキングに取り組むところが増えていきます。同時に機械設備さえ揃えば異業種からの参入も可能です。ただしネーム刺繍業界は長年にわたり培ってきた、ミシンを使いネーム刺繍するノウハウがあり、簡単に真似できるものではありません。

ミシンを使い一つずつ刺繍を縫い込むことができる技を持っている人は少なくなっています。しかし、培ってきたノウハウは業界全体の財産として受け継ぐことが可能です。これからもネーム刺繍を基盤として仕事内容を広げていくことで、新しい未来を築いていけそうです。

**DATA** ■ 中部日本ネーム刺繍業組合  
所在地：中区大須1-9-20 たつ美ネーム刺繍内  
・昭和18年頃：中部日本ネーム刺繍業組合設立